

内面の滑らかな仕上がりが特徴の小口径向け オールライナーZ工法

キーワード

管更生, 小口径, 自立管, 耐震, 形成工法



1. はじめに

2016年度末における全国の下水道管きよの総延長は約47万kmで、そのうち標準耐用年数50年を経過した管きよの延長は約1.4万km(総延長の3%)に達し、今後は急速に増加する傾向にある。また、下水管路の老朽化に起因した道路陥没例は2016年度に約3,300件発生している。

この下水管きよを適切に維持管理し、下水道施設を安定的かつ継続的に機能させるため、合成樹脂管による管更生工法であるオールライナー工法を実用化し、

さらに、耐酸性ガラス繊維を更生材に使用して強度を向上させ、管厚を厚くすることなく流下能力や施工性を保ち、硫酸による腐食環境下でも十分な耐久性を有するオールライナーZ工法を開発した(図-1)。

また、施工負荷の軽減のため、従来の温水硬化に加え、蒸気による硬化方式を追加した。

(公社)日本下水道協会発刊の「管きよ更生工法における設計・施工管理ガイドライン2017」の自立管要求に準拠し、経済的で施工性を向上させた口径φ150~600mmのオールライナーZ工法で管厚の薄いラインナップを追加し、2019年度中に販売を開始する。

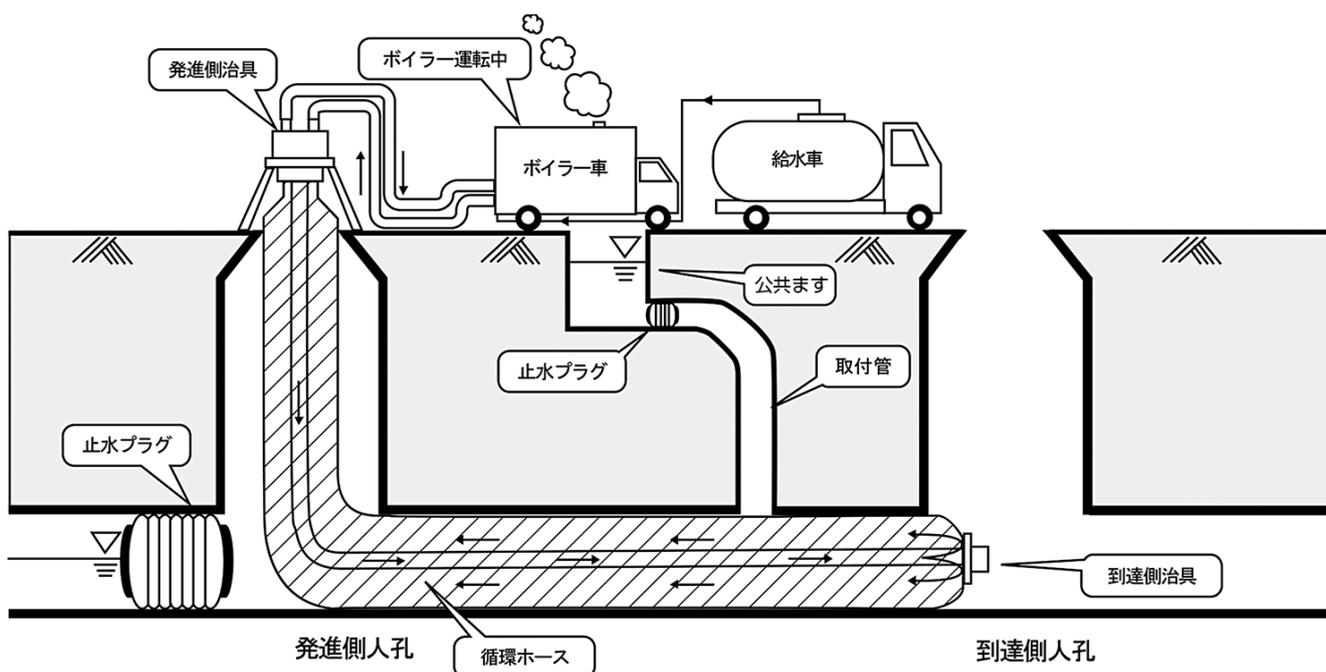


図-1 オールライナーZ工法 施工略図